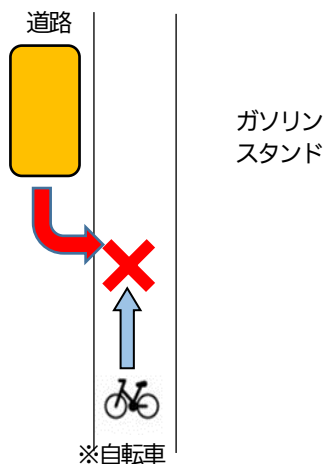


【別紙】事故の事例

事例1



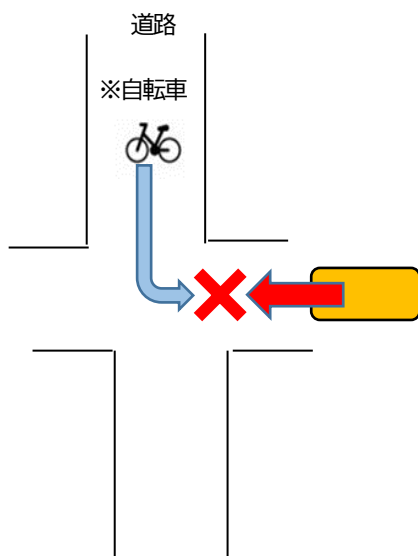
事例

一人で自転車に乗り、学習塾に向かう途中、ガソリンスタンドの出入り口前を通過しようとしたところ、ガソリンスタンドに入ろうとしてきた自家用車と接触した。運転手が、生徒に「大丈夫か」と話しかけ、生徒が「大丈夫です」と答えて、生徒はそのまま塾へ向い、加害車両の運転手は給油をした。

対策

- ① 駐車場の出入り口や交差点等で自動車が停止している場合や横断歩道上であっても、自動車の運転手が通行しようとしている歩行者や自転車の存在に気が付くことが遅れ、接触する場合がある。そのため、駐車場の出入り口や交差点等を通行する際は一時停止し、確実に自動車が停止しているかの確認を行う。
- ② 事故にあった際は、「大丈夫です」と言わず、相手の人に保護者へ連絡を取ってもらうことや車のナンバーや人物の特徴等を覚えておくことについて指導する。

事例2



事例

一人で自転車に乗り、学習塾に向かう途中、せまい路地を左折したところ、左から走行してきた自家用車とぶつかり転倒した。見通しの悪い狭い道路を左折する際に十分な確認と一時停止をしないで飛び出したことによる。運転手の「大丈夫か」との問いかけに対し、児童は「大丈夫です」と答えた。運転手は「気をつけてね」と返した。その後、運転手から名前を聞かれるなどの反応がなかったため児童は現場を去った。

対策

- ① 見通しの悪い交差点では、一時停止の標識がなくても、一時停止し、左右を確認した上で、ゆっくり通行する。また、自転車は車道の左側を通過する。
- ② 交通事故に遭ってしまった時は、相手の人に保護者へ連絡を取ってもらうことや車のナンバーや人物の特徴等を覚えておくことについて指導する。